

1	ショ糖は二糖類であり、小腸の内腔において、小腸粘膜細胞の刷子縁膜に局在する α -グルコシダーゼ、ラクターゼによって単糖類に分解されて吸収される。	○	問題文の通り。P5 右下 D. 参照
2	インクレチンは、食事を摂取したときだけ小腸粘膜細胞から分泌され、膵の β 細胞にはたらいて、まだ血糖が低いうちのすばやいインスリン分泌を促し、血糖が高くなってくると速やかに働かなくなる。	×	インクレチンは、血糖が低いときにはインスリン分泌を促進しないが、血糖値が高いときにインスリン分泌を促進する。インクレチン自身がc-AMP産生を増やすことと、血糖上昇時に β 細胞内に流入するCaイオンとの両方でインスリン分泌を刺激する。P7 右16行参照
3	プロインスリンがインスリンとなる(プロセッシングされる)ときに、元分子から外れた側のペプチドを、Cペプチドといい、インスリンと同じ分子数だけ生成される。	○	問題文の通り。P8 右下3. A 参照
4	我が国において、「血糖値」とは「100ml(1dl)あたりに含まれるブドウ糖の(重)量」を意味する。	○	問題文の通り。正常値は空腹時で70~110mg/dl とされる。
5	正常の代謝では血糖値が上昇しようとする時には、膵 β 細胞からのインスリン分泌は増加する。	○	問題文の通り。一定閾値を超えて血糖値が上昇する場合にインスリン分泌がかえって阻害されることがあり、糖毒性のメカニズムの一つとされる。
6	妊娠において、母体の体重はより低いほどインスリン抵抗性の出現や、ひいては妊娠糖尿病の発症も予防できず、低いほうがよい。	×	母体の体重が低すぎる(低栄養状態)において、低出生体重児となって、正誤成人となってから糖尿病の発症率が高いとされる。妊娠およびその経過では適切な範囲の体重管理が必要とされる。
7	糖尿病の診断において、OGTT 負荷2時間値が根拠となることより空腹時(負荷前)血糖が根拠となることのほうが多い。	×	空腹時126mg/dl未満、負荷後2時間200mg/dl以上を示す例のほうが、空腹時126mg/dl以上で2時間値200mg/dl未満になる例よりも多い、とされる。P31~32、表3-2参照
8	1型糖尿病は、以前は若年型糖尿病と言われていたが、全年齢層に発症することが知られている。その発症率は世界的にみれば低いほうに位置する	○	問題文の通り。P33~34、図3-7参照。
9	肝硬変による糖尿病では、空腹時血糖は正常で、糖負荷試験では負荷して1~2時間値が高くなり、3時間以降で下がることが多い。	○	問題文の通り。P48左㊦参照。